

2023年 NISC/NCA連携分野横断的演習 開催報告

チームトレーニング委員会
NISC/NCA連携演習実行委員会
実行委員長 Canon-CSIRT 羽場 満
2024年1月10日

- **分野横断的演習**
- **NISC/NCA連携演習**
- **アンケート結果**
- **Appendix**

分野横断的演習

分野横断的演習

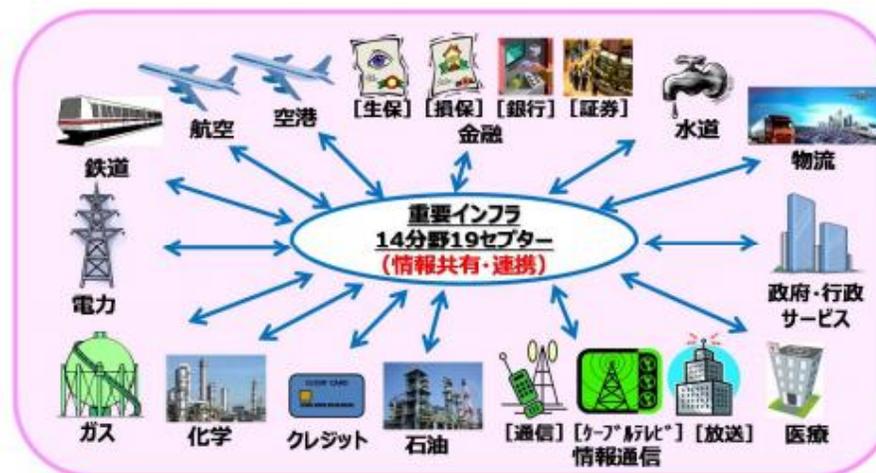
内閣サイバーセキュリティセンター(以下：NISC)が主催する14の重要インフラ事業者を対象としたサイバー演習

<目的>

重要インフラ事業者における事業継続計画や**官民・分野横断的な情報共有体制**に関する実効性の検証及び課題の抽出を行うことにより、**障害対応体制の強化**を図ることを目的とする。

【14の重要インフラ事業者】

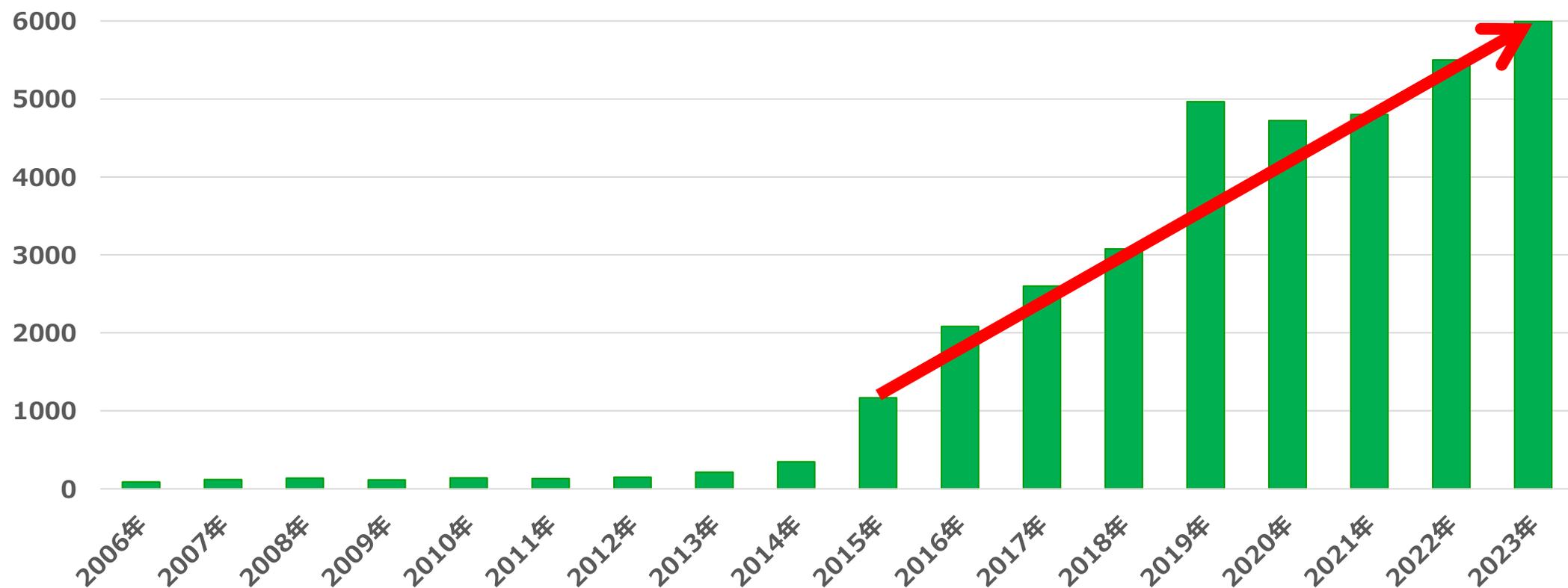
情報通信、金融、航空、空港、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流、化学、クレジット、石油の14分野



出典：NISC掲載資料「2018年度分野横断的演習について」

分野横断的演習 参加者の推移 (NISC全体)

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
参加人数	90	120	136	116	141	131	148	212	348	1168	2084	2647	3077	4967	4721	4800	5500	約6000



内閣サイバーセキュリティセンター (<https://www.nisc.go.jp/>) の
WEBサイトに掲載されている、分野横断的演習の実施報告



2023年12月8日
内閣サイバーセキュリティセンター

重要インフラ 14 分野を対象に
障害対応体制の検証のためのサイバー演習を実施
～2023年度「分野横断的演習」～

2023年12月7日(木)、内閣サイバーセキュリティセンターは、2023年度「分野横断的演習」を実施しました。演習開催に当たり、開会式に河野大臣が出席しました。

河野大臣は、昨今のサイバー情勢を踏まえた重要インフラへの影響や本年7月にサイバーセキュリティ戦略本部において決定した「重要インフラのサイバーセキュリティに係る安全基準等策定指針」について触れた上で、本演習を通じて、これまでの取組について課題を抽出・改善し、今後も重要インフラサービスを安全かつ継続的に提供していただくことを期待するとともに、重要インフラのサイバーセキュリティの強靱化のためには日頃からの情報共有が重要である旨の挨拶を行いました。

18回目となる今年度の分野横断的演習では、全14分野の重要インフラ事業者等、所管省庁、今回初参加となった警察庁・防衛省を含めた関係省庁、サイバーセキュリティ関係機関から、集合会場とオンライン参加を合わせて過去最多の約6,000名が参加し、ランサムウェア攻撃を想定したシナリオを用いて自組織のサプライチェーン対策を確認するなど、重要インフラの障害対応体制の強化を図りました。



開会式にて挨拶を行う河野大臣



集合会場視察の様子

https://www.nisc.go.jp/pdf/policy/infra/NISC_enshu_20231208.pdf

NISC/NCA連携演習

NISC/NCA連携演習とは

「**NISC/NCA連携演習**」は、NISCと連携し、「重要インフラ事業者」のみ参加可能な「分野横断的演習」と同じ環境(演習シナリオ)をNCA会員に提供。分野横断的演習の開催日（毎年12月）と同日にNCA会員向けにサイバー演習を開催し、チーム力の強化を図ってもらう。

NISC/NCA連携演習のこれまで

実施年	開催方式	会場	参加人数	チーム
2016年	オフライン	NISCの会場	8名	1
2017年	オフライン	トッパン・フォームズ	102名	20
2018年	オフライン	トッパン・フォームズ、大成建設	257名	64
2019年	オフライン	トッパン・フォームズ、富士ゼロックス、富士通エフサス、Sky	394名	89
2020年	オンライン	トッパン・フォームズ（事務局のみ）	488名	96
2021年	オンライン	トッパン・フォームズ（事務局のみ）	582名	99
2022年	オンライン	トッパン・フォームズ（事務局のみ）	705名	100
2023年	オンライン	TOPPANエッジ（事務局のみ）	813名	120

NISC/NCA連携演習概要

<演習実施日>

2023年12月7日（木） 13:00～16:30

<演習形態>

オンライン（Zoomウェビナー、Zoom会議、NCA kintone）

<参加者>

120チーム、813名（NCA加盟メンバー）

- ・ 製造業（42チーム）
- ・ 情報通信業（32チーム）
- ・ サービス業/卸売業・小売業（13チーム）
- ・ 建設業/電気・ガス・水道/不動産業（7チーム）
- ・ 金融業/保険業（7チーム）
- ・ その他（19チーム）

<演習概要>

演習は、事務局がシナリオを参加者へ提示し、対応内容を検討してもらう机上演習で実施。

少人数（1～2名）参加者に対しては、事務局がファシリテーターとなり、参加者とディスカッションしながら、演習を行う方式を昨年、トライアルで導入したが、今年は、正式に採用し実施。

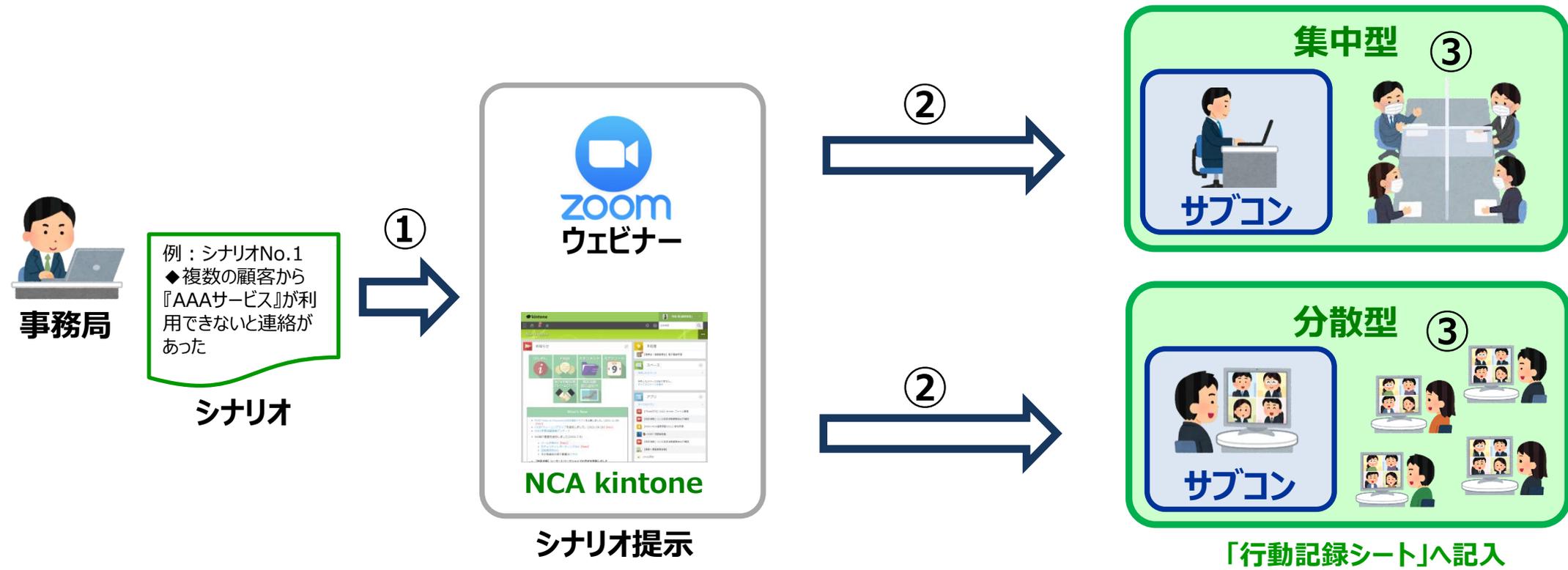
チーム毎に参加の目的を明確にしてもらい、目的が達成できたかチーム内で確認を行った。

演習後の振り返りの時間では、業種毎にディスカッションを行い、課題の共有を行った。

演習当日スケジュール

時間	所要	内容	サブコントローラー	メンバー
12:30-13:00	30	Zoomオープン（接続テスト可能）	Zoomウェビナー、Zoom会議	
13:00-13:15	15	①開会式(NISCの開会式を配信)	Zoomウェビナー	
13:15-13:20	5	各チーム移動	-	
13:20-15:00	100	②演習	Zoomウェビナー、Kintone、 自社会議システム	自社会議システム
15:00-15:30	30	③各チームで振り返り(適宜休憩)	自社会議システム	
15:30-16:10	40	④各会議室でのディスカッション	各Zoom会議	
16:10-16:30	20	⑤アンケート、全体振り返り、閉会式	Zoomウェビナー	

演習の流れ（3名以上での参加）

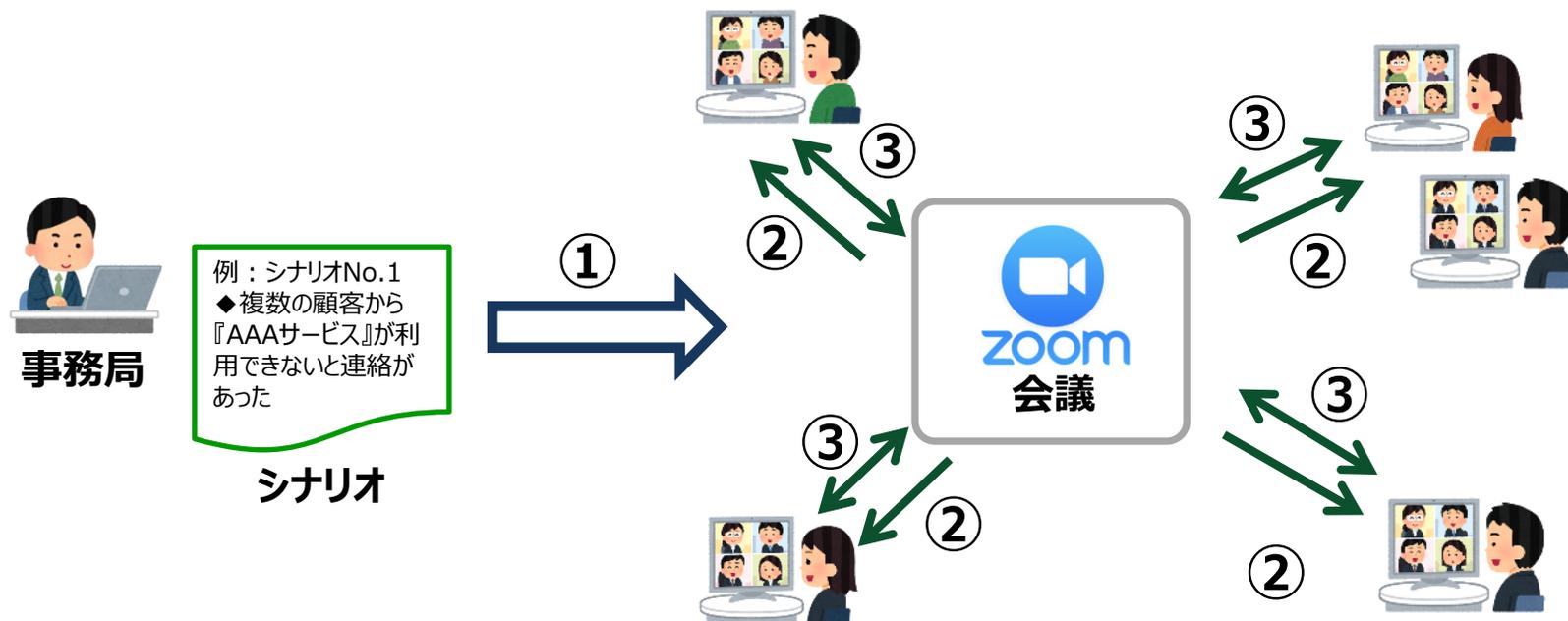


- ① 事務局がZoom(ウェビナー)とkintone上にシナリオを提示
 - ② サブコンが、Zoom/kintoneにシナリオが表示されたタイミングで、メンバーにシナリオを提示
 - ③ メンバーは、提示されたシナリオに対して、対応する内容や検討した事項を「行動記録シート」に記入
- 上記①、②、③を繰り返す

1~2名参加 演習当日スケジュール

時間	所要	内容	参加者
12:30-13:00	30	Zoomオープン（接続テスト可能）	Zoomウェビナー、Zoom会議
13:00-13:15	15	①開会式(NISCの開会式を配信)	Zoomウェビナー
13:15-13:20	5	第1部参加者は、Zoom会議へ移動	
13:20-14:35	75	②第1部 Room-I/Room-J 事務局主導による演習	Zoom会議（Room-I/Room-J）
14:35-14:55	20	③休憩	
14:55-16:10	75	④第2部 Room-I/Room-J 事務局主導による演習	Zoom会議（Room-I/Room-J）
16:10-16:30	20	⑤アンケート、全体振り返り、閉会式	Zoomウェビナー

演習の流れ（1～2名での参加）

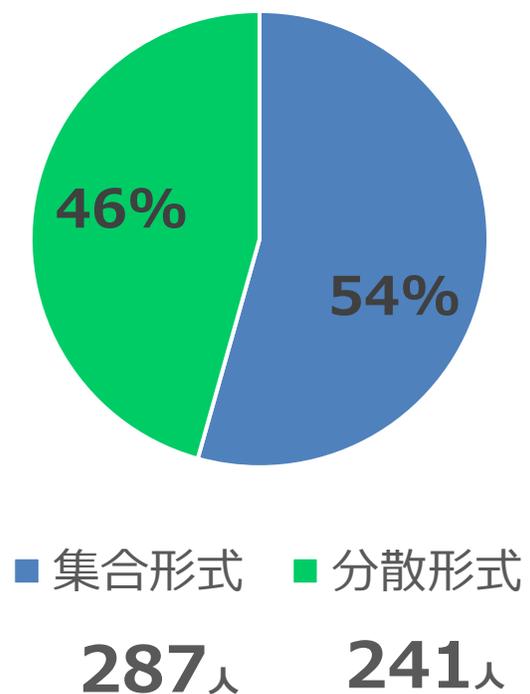


- ① 事務局がZoom(会議) にシナリオを提示
- ② Zoomにシナリオが表示されたタイミングで、各自で対応方法を検討
- ③ 事務局がファシリテーターとなり、皆さんでディスカッションを実施
上記①、②、③を何度か繰り返す

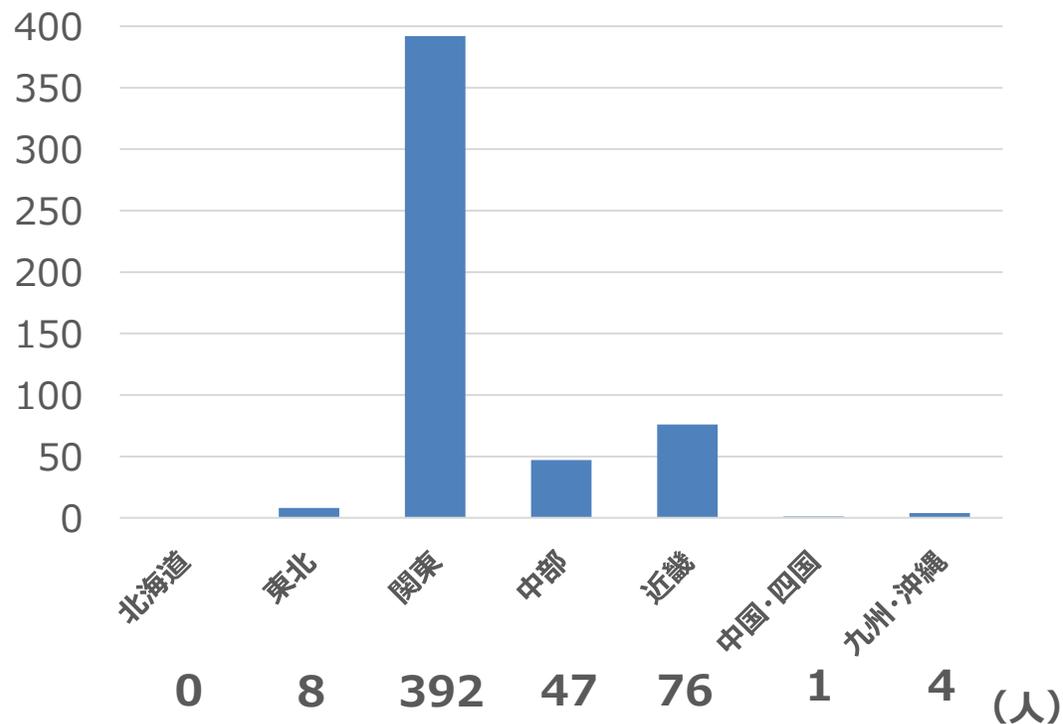
アンケート結果

アンケート結果

演習の参加形態

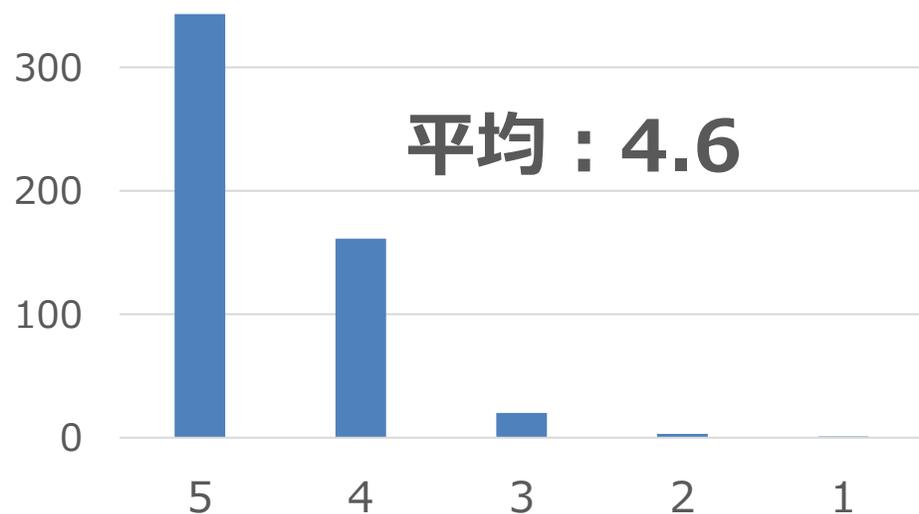


参加場所



アンケート結果

演習について



	人数
5 有意義	343
4	161
3	20
2	3
1 有意義でない	1

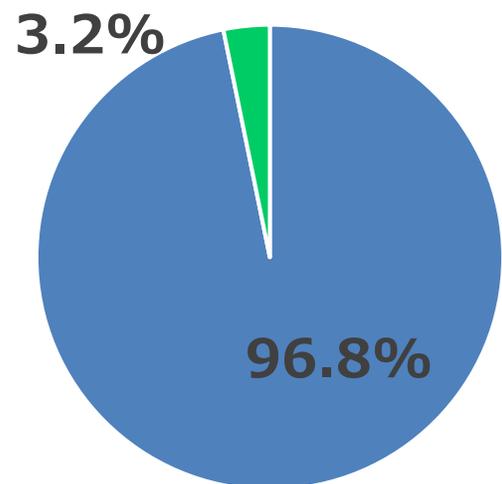
目的を達成できたか



	人数
5 できた	191
4	245
3	76
2	7
1 できなかった	3

アンケート結果

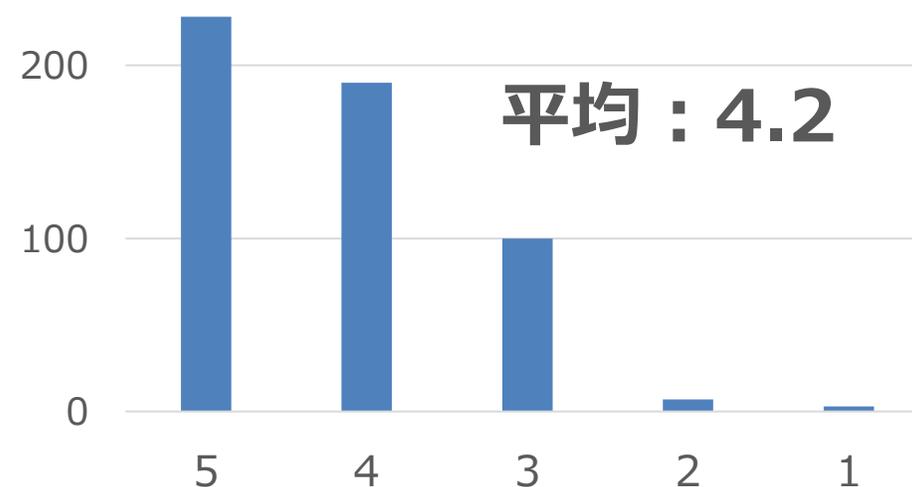
新たな課題を発見できたか



■ できた ■ できなかった

511人 **17人**

振り返り(ディスカッション)は有意義であったか



	人数
5 有意義	228
4	190
3	100
2	7
1 有意義でない	3

アンケート結果

本演習で発見した課題

課題を、最大3つまで、自由記述で回答。

課題は全部で882件（1つ記載が519人、2つ記載が249人、3つ記載が114人）

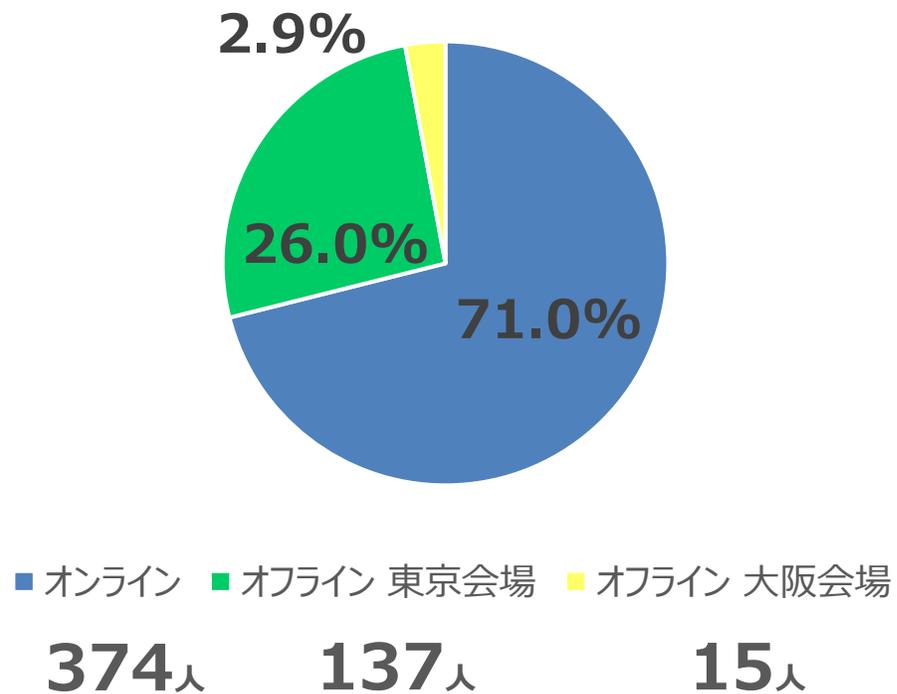
カテゴリ	発見した課題の内容	件数	パーセント
情報共有・連携	社内の情報共有（エスカレーション、他部門）	118	13.38%
	対外対応（報道発表、各種報告、問い合わせ窓口など）	71	8.05%
	外部連携（ベンダやSOCなど）	36	4.08%
プロセス	体制面（人材、人数、リーダー、役割）	89	10.09%
	ドキュメント関連（作業手順書などが不十分、未整備）	85	9.64%
	インシデント対応プロセスそのもの（手順やフローが無い、または不十分）	80	9.07%
	時間に関する課題（対応時間の長さなど）	13	1.47%
意思決定	意思決定（判断基準や役割）	65	7.37%
その他	技術的な内容（ログ保全、NW切断など）	66	7.48%
	緊急時の運用（BCP）	62	7.03%
	情報収集と整理、IT資産の管理	37	4.20%
	実現性、実効性	29	3.29%
	その他	131	14.85%
	合計	882	100.00%

アンケート結果

次回の参加について



次回の希望の演習形態



Appendix

日経XTECHにNISC/NCA連携演習の内容が記事になりました。（有料会員限定）

ランサムウェアでの業務停止に現行BCPで対応可能？ 120組織がサイバー演習に挑む

田村 奈央 日経クロステック

2023.12.25

有料会員限定



全3022文字

2/2開催無料セミナー！コスト削減に繋がるエッジコンピューティングHCIとは PR
IT/製造/建設分野の製品・サービス選択支援情報サイト：日経クロステックActive PR

「取引先からマルウェアの添付されたメールが大量に届いた」「ランサムウェアでシステムが停止した」――こうしたセキュリティ事件（インシデント）が発生した際、自社ならどう動くかとっさに判断できるだろうか？ CSIRT（コンピューター・セキュリティ・インシデント・レスポンス・チーム）などのセキュリティ専門チームを設けてインシデントに備える企業は年々増えているが、それだけでは十分とは言えない。有事に直面した際に適切な対応を取るには、定期的なサイバー訓練が必要だ。

そこで国内CSIRTの集まりである日本コンピュータセキュリティインシデント対応チーム協議会（日本シーサート協議会、NCA）は年に1回、内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）と合同で「NISC/NCA連携分野横断的演習」を実施している。2023年は12月7日に開催された。NCAの会員企業・団体から過去最多となる120チーム（813人）が演習に参加し、昨今の脅威の実態に即した仮想的な攻撃シナリオにどう対応するか頭をひねった。2022年の100チーム（705人）から大幅に参加チームが増え、企業・団体の間で演習の重要性への意識が高まっていることがうかがえる。

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/08742/>



演習当日の運営メンバー



運営会場



※モザイク処理しています

参加者

演習当日運用メンバー

TOPPAN Edge CSIRT	加藤 孝浩
SHIFSIRT	増田 佳弘
FSAS-CSIRT	倉持 慎一郎
GMO 3S	菊田 貴志
SBT-CSIRT	北村 達也
TOPPAN-CERT	庄司 朋隆
INTEC-SIRT	福岡 かよ子
PIRATES	井出 雄介
IL-CSIRT	伊藤 圭亮
NTT WEST-CIRT	粕淵 卓
専門委員	石塚 元
Canon-CSIRT	羽場 満

※順不同、敬称略

演習事務局用 会場提供・準備

TOPPANエッジ株式会社
TOPPAN Edge CSIRT



<https://www.nca.gr.jp/>